

## R34a VERA を用いた kpc スケールの距離に位置する星形成領域の位置天文観測

本間 希樹、小林 秀行、川口 則之、柴田 克典、宮地 竹史、武士俣 健、廣田 朋也、寺家 孝明、官谷 幸利、小山 友明、倉山 智春、蒲原 龍一、須田 浩志、崔 崙景、呉 忠植、貴島 政親、山下一 芳、真鍋 盛二、亀谷 収、田村 良明、堀合 幸次、久慈 清助、佐藤 克久、岩館 健三郎、酒井 俐（国立天文台水沢 VERA 観測所）、面高 俊宏、亀野 誠二、今井 裕、中川 亜紀治、新谷 元信、對馬 美雪、永山 匠（鹿児島大）、他 VERA グループ

VERA を用いた星形成領域水メーザーの位置天文観測について報告する。

すでに2006年春季年会に報告したように、反銀河系中心方向にある大質量星形成領域 S269 の水メーザー源を、2004年11月～2005年11月の1年にわたって VERA でモニター観測し、5 kpc を超える距離の年周視差の検出に成功している。これは人類がこれまでに計測した年周視差の中で最も小さなものの一つである。

VERA を用いた S269 の水メーザー観測は2005年11月以降も続けられており、今回の講演では最新のデータをあわせて S269 水メーザーの位置天文計測結果について改めて報告する。さらに、S269 以外にも W49N や OH43.8-0.1 などの星形成領域の明るい水メーザー源のモニター観測を2005年11月から開始しており、これらの観測の進捗状況についてもあわせて報告する。さらに、今後 VERA のプロジェクト観測において多くの星形成領域水メーザー源を観測していく予定であり、その戦略や進捗状況についても簡単に紹介する。